
平成 28 年

10 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

活力ある新産地づくり

中濃農林■ゆず 現地研修会で情報交換

10月1日、かみのほゆず（株）主催でゆず現地研修会が開催された。研修会では地域の優良ゆず園2カ所を視察し栽培管理方法や生育状況について情報交換を行った。

農業普及課からは、今年度取り組んでいるナギナタガヤによる除草作業の省力化実証やゆず栽培の収益について情報提供した。ゆずは適正な管理をすれば10万円/5aの収益を得られる品目であるため、今後は収益性もPRしながら産地拡大を推進する。



【ゆず園での現地研修会】

多様な担い手づくり

岐阜農林■中山間地の集落営農法人化 設立総会を開催

10月9日、山県市青波コミュニティセンターにおいて、「農事組合法人あおなみ」の設立総会が開催され、事業目論見に関すること、定款・規約、役員選任、役員報酬に関することなどの議案が上程され、すべて承認された。

農地中間管理事業重点推進モデル地区として、山県市、JAぎふ、農林事務所が中心となり、岐阜県農業会議（経営アドバイザー、スペシャリスト）や県農業経営課（農業革新支援センター）の協力を得て、法人化設立に向けた支援を行ってきた。

農業普及課では、今後の法人経営体の営農確立が重要であることから、事業活動支援を続けていく予定である。



【閉会後の集合記念撮影】

西濃農林■指導農業士 農業大学校学生派遣学習状況確認 海津市、神戸町

農業大学校2年生の派遣学習を受け入れている神戸町の指導農業士（葉菜）、海津市の指導農業士（いちご）宅で、10月6日、7日担当教諭とともに状況確認を行った。

3名の学生とも熱心に派遣学習をしている様子であった。10月22日に1ヶ月の学習期間が終了し、11月2日に農業大学校にて学習報告会が開催される。



【神戸町】



【海津市】

可茂農林■青年農業士・4Hクラブ支援 若手農業者情報交換会「若人のつどい」を開催

「若人のつどい」は、10月17日、可茂地区青年農業士会・可茂地区4Hクラブ連絡協議会の主催で、農業の後継者を目指す農業大学校生を招いて、交流を深めながら情報交換を行うことを目的として開催された。当日はボウリングや飲食の時間を通して交流を深め、今後の農業経営や現在の農業の問題点について意見交換を行った。当地区の青年農業士と4Hクラブは今年度、「全国農業サミット in ぎふ」の開催に向けた



【応援ボード作成の様子】

応援メッセージボードを共同で作成するなど活動が盛んで会員相互の結束が高まっている。

農業普及課は、今後も青年農業士・4Hクラブの活動支援を通して若手農業者の育成を継続していく。

恵那農林■夏秋トマト 新規栽培者の交流研修会を開催

農業普及課では、近年増えている新規栽培者同士の交流を目的として、東美濃夏秋トマト生産協議会と連携して、10月12日にはほ場巡回研修会を行った。

研修会は、栽培開始5年以内または40歳以下の生産者及び就農予定者の33名を対象に開催し、当日は17名が参加し、協議会からは協議会長や新規就農者育成部会長らも出席し、参加者に対して助言等を行った。

現地ほ場研修は、今年度から恵那北地区で栽培を開始した3名のほ場を巡回し、参加者は本人から耕種概要、労力、今後の目標などの説明を受けた後、ほ場内でトマトの着果状況や管理状況等を確認し、次年度に向けた新たな生産意欲が伺えた。

農業普及課では、今後も関係機関と連携し、10年後のトマト産地を見据えた新規栽培者の支援を重点的に行っていく。



【新規栽培者の説明風景】

飛騨農林■担い手 高山4Hクラブ地域貢献活動

高山市内の30歳以下の農業者によって組織されている高山4Hクラブでは、地域貢献活動や県外視察研修などの活動を活発に行っている。

地域貢献活動の一環として、クラブ員自らが生産した旬の農産物を、市内7か所の福祉施設に贈呈する取り組みを毎年実施している。

10月には役員が施設を訪問し、ハウレンソウやトマト、ジャガイモ等の新鮮な野菜類、米、チャービル等のハーブ類を贈呈した。各施設ではこれらの食材を使用した食事が利用者に提供され、多くの利用者が楽しみにしている。

農業普及課では、高山市と協力し贈呈セレモニーの開催を支援しており、今後も高山4Hクラブの活動支援を通じて、若手農業者の育成を図る。



【農産物贈呈の様子】

売れるブランドづくり

揖斐農林■柿 岐阜大学「富有柿倶楽部」現地実習

大野町柿産地協議会では、岐阜大学が「地域ブランドと地域振興」の授業として開講している「富有柿倶楽部」に協力している。10月12日に大野町において、学生29名、大野町柿振興会、同婦人部、関係機関等が参加し、現地実習が開催された。

当日は、柿選果場の視察、収穫体験、加工品づくり、品種の食べ比べ、柿加工品実需者からの商品開発についての講義、意見交換会などを行った。企画運営は、農業普及課、大野町柿振興会、大野町、J Aいび川が岐阜大学と連携して行い、学生達が富有柿を身近に感じ、産地について学習する良い機会となった。

今後学生達は、テーマ別にワークショップを実施し、富有柿の振興方策を産地に提言する計画になっており、産地にも刺激となることを期待している。



【柿の食べ比べ風景】

郡上農林■担い手 次年度栽培品種検討会を開催

ひるがのフラワーサークル・トルコギキョウ部会では、次年度の栽培品種についての検討を進めている。

9月30日と10月21日には検討会を開催し、今年の栽培・出荷について反省を行い、次年度への対応を踏まえながら、品種構成についても検討を進めた。これに対し農業普及課も日々の巡回や各種調査結果を基に助言した。

本年度は高品質・高単価な花き栽培を実現できたが、次年度は新品種の栽培も行い、一層の産地ブランド力向上に取り組む事となった。

農業普及課では、品種に合った栽培方法を検討し、さらなるブランド化に向けた支援を継続する。



【検討会の様子】

東濃農林■地域活性化 シェフヒアリングを実施

多治見市の甘原町を含む隣接3地区と地元企業で作った三郷活性協議会において、「シェフヒアリング」が実施され、東京の高級レストランを数店舗訪ね、シェフらから今欲しい野菜等について直接聞き取りを行った。

そこでは、マイクロ野菜を始め、一般流通していない食材に対する要望が多くあったほか、どのようにつくられたのか産地の情報が欲しいとの声が多く聞かれた。

シェフらの良いものを、責任を持って選び料理として提供したいとの強い意思に、生産地としてもできるだけ応えていきたいとの思いを持った。

農業普及課としては、引き続き地域活性化に向けた活動支援を行うほか、地域ビジョンの実現に向けた活動を支援していく。



【ヒアリングの様子】

下呂農林■水稻 第2回飛驒の美味しいお米・食味コンクール開催

10月23日、飛驒農協飛驒地域農業管理センターにおいて、第2回飛驒の美味しいお米・食味コンクールが開催された。飛驒コシヒカリは、穀物検定協会の食味ランキングで2年連続「特A」を獲得しており、平成30年には米・食味分析鑑定コンクール国際大会が高山市で開催されることを踏まえ、飛驒の米をより一層ブランド化し、稲作農家の意識高揚と情報共有及び消費者への情報発信を強化することが目的。

コンクールには341人の生産者から537点の米が出品され、食味値と味度値を基本として評価し、金賞5点、特別優秀賞10点を選出・表彰した。

コンクールでは、米・食味鑑定士協会長の鈴木秀之氏の記念講演があり、飛驒地域は観光・環境面の強みを生かして「美味しいお米が食べられる」ことをPRすれば、更に観光客を呼び込む要因となりうることなどの提言があった。また、中山間農業研究所による食味向上技術研修会及び和仁農園からの事例報告もあった。

表彰式では、下呂市から出品された(農)かみはら山水農園の米がトップの成績で金賞を受賞し、下呂市関係者は喜びに包まれた。

同時に開催されたおにぎりレシピコンテストでは、あぶらえみそのおにぎり、ひだおにぎりぎゅうぎゅう、トマトみそおにぎりの3点が、参加者の試食と投票によって審査され、トマトみそおにぎりが最優秀となった。

農業普及課は関係機関とともにコンクールの開催を支援した他、今後も美味しい米づくりを追及して栽培技術の向上を指導していく。



【写真左：記念講演、写真中：表彰式の様子、写真右：金賞に輝いた皆さん】

農業経営課■飛騨牛 繁殖用めす牛の共進会開催

10月に入り、飛騨各地で飛騨牛の繁殖用めす牛の品質向上と飼育技術の研鑽を目的とする共進会が開催された。農家から出品された自慢牛は、岐阜県畜産研究所職員、全国和牛登録協会から委嘱された地方審査委員、農協職員等の審査員により、黒毛和種の審査標準に従って発育・体型・栄養度・資質品位等の厳正な審査により順位が決定され、各地域の優秀牛は（公社）全国和牛登録協会岐阜県支部が10月29日（土）に飛騨家畜流通センターで開催した岐阜県畜産共進会に出品された。

農業経営課革新支援専門員は共進会会場で繁殖用めす牛等の飼育相談に対応し、無駄な脂肪を落とすための飼養管理方法等を指導している。

来年9月7日～11日に宮城県で開催される第11回全国和牛能力共進会まで1年を切り、飛騨牛日本一獲得をめざす農家の機運が一層高まりを見せている。



【高山市清見地区共進会】